

ZLユニファイド・アーカイブ®

コンプライアンスの事前審査 と高度なサンプリング

©ZL Technologies, Inc.
パー

ユニファイド・アーカイブ® ホワイトペー

コンプライアンスへの取り組みを最適化するための支援

今日の企業は、規制当局によって施行された数多くの業界特有のルールの中で事業を運営することが求められている。これは、金融サービス、ヘルスケア、公益事業、バイオメディカル・サイエンスなど、規制の厳しいセクターのビジネスに特に当てはまる、と政府。これらの規制は常に進化しているだけでなく、一般的に時間とともに厳しくなっている。このような規制環境が成熟するにつれ、ビジネス上のミスが許される余地は少なくなっている。単に法的要件というだけでなく、データに対するコンプライアンス管理は、ハイレベルな戦略課題として浮上している。大企業は、コンプライアンスワークフローの効率と精度を高めるだけでなく、こうした取り組みを全社的な情報ガバナンス戦略と緊密に統合する模索している。

規制対象企業は、ダイナミックに変化する今日の要件に準拠し続けるために警戒する必要がある。既存の法律に対する調整は珍しいことではない。例えば、FINRA（金融業規制機構）は2014年に金融サービス会社を管理する規則を追加または改正するために約50の提案を行った。この傾向は2015年に入っても続いており、年央までにさらに25の提案が提出されている。提案された変更の多くは、既存の要求事項の範囲を拡大するものである。、提案のひとつは、すべての債券調査アナリストのレポートについて、コミュニケーションにおける利益相反の開示を義務付けるものである（以前は株式調査のみに適用されていた）。電子メール、インスタント・メッセージ（IM）、ソーシャルメディアへの投稿、その他の非伝統的なコミュニケーションなど、組織が生成する電子コンテンツによって、コンプライアンス要件を満たすことがますます難しくなっている。

失敗のリスクは大きく、民事罰に加えて刑事罰もあり得るため、高額になる可能性がある。医療業界におけるHIPAAプライバシー規則違反の罰金は総額25万ドル、最高10年の懲役刑の可能性があり、金融サービス会社ではSEC17a-4の規則に違反した場合、100万ドル以上の罰

金が科される可能性がある。守るべき規則も必ずしも明確ではない。海外腐敗行為防止法（Foreign Corrupt Practices Act）のような規制には曖昧なガイダンスがあることで知られており（腐敗の定義とは一体何なのか？ このような違反に対する罰金は、最高額に達している。億9,000万ドルに上り、国際的な国境を越え、最高幹部が刑務所に収監されることもある。リスクは高いが、企業はしばしば、何がレッドフラッグやコンプライアンス違反の可能性を構成するかを正確に把握するために、自らの判断に任されている。したがって、データを包括的に管理することの価値は計り知れない。(1)潜在的な問題を監視することが容易になり、(2)その後に問題が生じた場合に、実施されたポリシーを説明し、弁護することが容易になるからだ。

組織の事業環境に関連するポリシーを策定し、従業員の行動を監視（サーベイランス）してコンプライアンスを確保することは、継続的かつ継続的なプロセスであり、多大なコストと労力を要する。事業部門、コンプライアンス部門、IT 部門法務部門など複数の部門が、規制上の制約、企業の優先事項、組織のリスク・エクスポージャーを理解し、コンプライアンス策定するために、首尾一貫して取り組む必要がある。サーベイランスは、監査要件を満たすためだけでなく、内部是正措置を適用できるよう、違反の発生を早期に特定するためにも、戦略の重要な要素である。タイムリーな違反の特定や対処に失敗すると、高額な法的手続きや多額の罰則が科される可能性がある。慎重に設計された情報ガバナンス・プラットフォームは、企業が効果的かつコスト効率の高い方法でコンプライアンス戦略を実行する上で大いに役立つ。

本稿では、そのような2つのプラットフォーム・コンポーネントについて説明する：

- (1) ZLコンプライアンス・マネージャー・プレレビュー・モジュール
- (2) ZLコンプライアンス・マネージャー アドバンスド・サンプリング・モジュール

本稿では、ワークフローと機能性についての議論を通じて、これらのモジュールが、監視の労力と行動をよりきめ細かなレベルで管理することにより、組織のコスト最適化にどのように役立つかを明らかにする。これらの技術的機能は、費用対効果の最適化に役立つだけでなくコンプライアンスやリスク部門の主要な組織要員が費やす時間も最適化するため、無駄な時間や誤った注意を最小限に抑えることができる。

典型的なコンプライアンスの流れの概要

ZL Compliance Manager の Pre-Review および Advanced Sampling モジュールのコアバリューを理解するためには、組織のコンプライアンスフローにおける典型的なステップを再確認することが役立ちます。組織独自のコンプライアンス・ワークフローに関する具体的な詳細は、この議論に関係しないため、この概要では取り上げませんが、一般的な包括的プロセスは、ほと

んどの組織で類似しています。

コンプライアンス・フローを設定する最初のステップの1つは、どの情報源（電子メール、インスタント・メッセージ、ソーシャルメディア・プラットフォームなど）を監視の対象とすることを決定することである。、電子メールはほとんどの場合、レビューすべき情報源と見なされるが、金融サービス企業は通常、ブルームバーグ端末などのプラットフォームからのトレーダーのチャット記録もレビューすることを選択する。様々なネイティブ・ソースからこれらのデータ・タイプ（以後「メッセージ」と呼ぶ）を取り込み、後の時点でレビューできるようにリポジトリにプールするためのインフラを確立しなければならない。

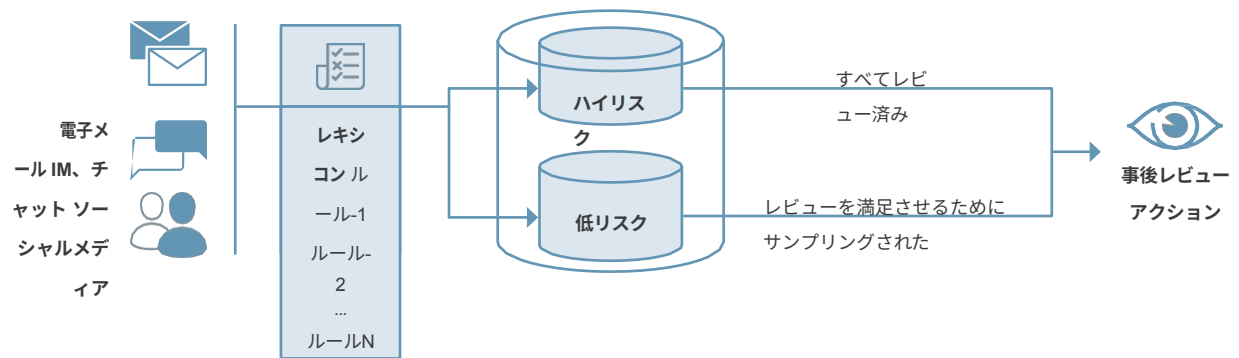
リポジトリに持ち込まれるすべてのメッセージをレビューするのは、単に量が理由だけで、明らかにコスト高になる。この問題に対処するため、組織は通常2つの条件を設定する。最初の条件は、どの期間でもレビューが必要な総メッセージの最小パーセンテージを管理するレビューパーセンテージです。この割合は、規制ガイドライン、業界規範、組織の過去の経験など、複数の要因に基づいて決定されるが、これらに限定されるものではない。第二の条件は、レキシコンと呼ばれる、グループ化された一連のルールである。これらのルールは、違反に見られる可能性の高い、あるいは低い、組織特有の状況を反映したものである。ルールは、コンプライアンス・リポジトリに持ち込まれたすべてのメッセージに関連するコンテンツおよび/またはメタデータと比較される。ルールの基準に一致するメッセージはすべて、ルールに応じて高リスクまたは低リスクのフラグが立てられる。

どのレビュー期間においても、2つの状況が起こり得る。高リスクと判定されたメッセージの数が、上記の第一の条件で設定された最低レビュー割合を十分に満たしている場合低リスクと判定されたメッセージは、ノルマを満たしたため、レビューのために提示されることはありません。しかし、高リスクと判定されたメッセージの数が、最低レビュー割合のノルマを満たすために必要な数よりも多い場合、レビューするメッセージの数は、高リスクと判定されたメッセージの数よりも少なくなります。

はレビューのパーセンテージを超える可能性がある。2番目のシナリオでは、高リスクとマークされたメッセージの数がレビューのパーセンテージを満たすのに十分でない場合、レビューのパーセンテージを満たすのに必要な残りは、低リスクとマークされたメッセージからランダムにサンプリングされます。

プロセスの最後のステップでは、レビューのために提示されたすべてのメッセージがレビューアーによって分析され、必要なアクションが取られる。以上の手順を以下に：

ダイアグラム標準遵守フロー



標準的なコンプライアンス・フローの限界

前節で説明したような典型的なフローには、いくつかの重大な制限がある：

- (1) 非準拠の可能性のあるアウトバウンドメッセージは、ビジネスから「ブロック」することはできない。コンプライアンス違反のアウトバウンドメッセージやインバウンドメッセージ（外部の受信者から送受信されるメッセージもたらすリスクは、純粋に内部的なメッセージがもたらすリスクよりも大幅に高くなる可能性があります。このような違反に気づいたときには、手遅れになっている可能性もあります。このようなメッセージがレビューされる前に外部の受信者に配信されるのを防ぐことが理想的である。ほとんどの標準的なコンプライアンス・サービスにはそのような機能はない。
- (2) 低リスクメッセージのランダムサンプリングは、（必要な場合はいつでも）1回のレビューのパーセンテージのみに基づいて行われる。これでは、アウトバウンド、インバウンド、および内部メッセージがもたらすリスクの違いをサンプリング組み込むことができません。コンプライアンス・プラットフォームは、3種類のメッセージ方向に対して異なるサンプリング率をサポートすることが望ましい。これも多くの標準的な製品では不可能である。
- (3) ランダムサンプリングのパーセンテージを1つしか指定できないことが、もう1つの制限となる。レビューのために提示されるメッセージの総数と低リスクのメッセージの数については、ほとんど制御できません。従って、メッセージに高リスクのフラグが付けられるような重い時期には、全てのメッセージが提示されることにレビュー担当者の作業負荷が大幅に増加します。同時に、そのような期間には低リスクのメッセージはサンプリングされない。このため、高リスクメッセージとしてフラグを立てるべきいる可能性がある。高リスクと低リスクのメッセージをバランスよくレビューすることで、より良いサンプリングとデューデリジェンスが可能になる。繰り返しになる

が、ほとんどの標準的なコンプライアンス・サービスは、通常このような柔軟性を提供していない。

上記の最初の制限は、ZL Compliance ManagerのPre-Reviewモジュールを有効にすることで取り除くことができます。このモジュールには、ZLサーバーのメール転送エージェント（MTA）が組織のメッセージングゲートウェイに設定されている必要があります。このモジュールを有効にすると、事前レビューがトリガーされた送信メッセージや受信メッセージがブロックされ、コンプライアンスレビューアに表示されます。レビューアによって承認されたメッセージのみが、次の場所に配信されます。

各受領者

上記の2番目と3番目の制限は、ZL Compliance ManagerのAdvanced Samplingモジュールを有効にすることで取り除くことができます。ZLのジャーナリングおよび分類エンジンは、内部、受信、および送信メッセージから複数のバケットにメッセージを効率的に分類し、処理することができます。Advanced Samplingモジュールでは、メッセージ、受信メッセージ、送信メッセージの相対的な割合を指定し、ランダムサンプリングを行うことができます。したがって、次のようになります。

他の2つのカテゴリーと比較して、特定のカテゴリーのメッセージのサンプリングを増減することが可能です。事実上、これは各カテゴリーのレビューパーセンテージを別々にコントロールすることを意味し、2つ目の制限を取り除くことになる。

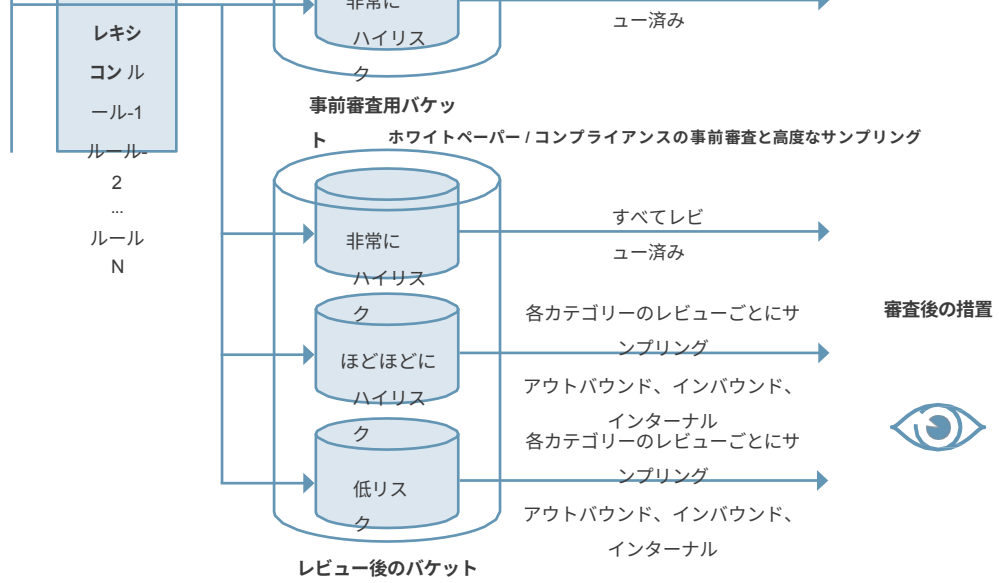
Advanced Sampling モジュールには、高リスクのカテゴリーを極めて高リスクのグループと中程度の高リスクのグループに細分化する機能もあります。極めて高リスクとフラグ付けされたすべてのメッセージは、設定されたレビューのパーセンテージに関係なく、レビューのために提示されます。

は、最も差し迫った状況のカテゴリーを表している。しかし、フラグが立てられたメッセージは中程度の高リスクとされたメッセージは、サンプリング・クォータを満たせば、ランダム・サンプリングの対象となる。さらに、企業は、中程度の高リスクと低リスクの、希望するレビューの割合を個別に指定することができます。この2つのバケツでメッセージを別々に扱い、ランダムサンプリングすることで、レビューのために提示されるメッセージの数の劇的に減らすことができる。その結果、組織はレビューと分析に必要なリソースをより適切に計画することができる。また、既存の語彙（品質と関連性）に対するコンプライアンス監視プロセスの依存性も低下する。したがって、3つ目の制限も取り除かれる。

次の図は、審査プロセスにおける修正ステップを表したものである。

ダイアグラム事前審査と高度なサンプリングによるコンプライアンスの流れ





結論

企業は、厳しい規制環境、爆発的に増加する電子情報、競争の激化など、さまざまな課題に直面している。その結果、企業は常にコンプライアンスを向上させながら、運用コストを削減するという戦いに挑んでいる。電子情報のレビューをよりきめ細かく管理することで、コストを大幅に増加させることなく、ポリシー確実に摘発することができます。ZL Compliance ManagerのPre-ReviewモジュールとAdvanced Samplingモジュールは、レビュープロセスのきめ細かさを向上させる多くの貴重な機能を提供します。

